

令和7年度 佐賀学園高等学校 学校評価

1 学校教育目標

建学の精神「産業界の第一線に貢献する人材の育成」と校訓「創造」「躍動」「貢献」を尊び、いかなる時流においても生き抜く力を身につけさせる教育を実践する。

2 学校経営ビジョン

- ①県民・地域社会の信頼を得る学校づくりを目指す。
- ②基本的生活習慣の定着及び周りの人への思いやりをもった心豊かな生徒の育成を目指す。
- ③生徒一人一人の学力・人間力を伸ばし、すべての生徒の進路保障を目指す。
- ④部活動の奨励と充実を図り、社会性及び人間性の高さを図る。

3 本年度の重点目標

本校は多様な生徒(県内外、普通科・情報処理科・商業科)を、少人数級によるきめ細かな指導により、様々な進路選択(大学・短大・専門学校・就職)を実現できる学校である。創立70周年を数年後に控え、産業界の第一線に貢献する人材の育成を建学の精神を柱とした伝統の継承と未来に向けた更なる学校の活性化に向け、キャリアフーズを「心一つにみんで創る佐賀学園」とし、職員・生徒一体となった学校づくりを行う。選ばれた学校・信頼される学校を創るため、生徒一人ひとりの「人間力」の向上を目指し、次の3つの心育てる。

- 向上心:夢に向かって勉強や部活動に打ち込み、自己を高めていく心
- 自律心:社会的マナー・服装等を整え、清く正しい生活をめざす心
- 思いやりの心:人の心の痛みや苦しみを思いやれる心、ボランティアの心

【日々の取組み】

- (授業)
- ・教職員が日々自己研鑽に努め、主体的に授業に参加できるような授業・生徒を惹きつける授業を実践する。積極的に授業研究会等への参加、校内研究授業の実施により、更なる指導力の向上に努める。電子黒板やタブレットPCも効果的に活用し、新しい時代の教育の在るべき姿を模索する。
 - ・毎朝のトシ、スタディサプリなどによる基礎学力の定着を図る。
- (部活動)
- ・部活動加入率70%を目標に、その充実・強化については主体性を育み、効果的な活動を通して今後も更に力を注ぐ。文化部・運動部を含め、5部以上が県レベルで1度は優勝することを学校の目標とする。
- (キャリアデザイン)
- ・主に総合的な探究の時間において、生徒一人ひとりが将来の自分の生き方をデザインできる力を育む。年間指導計画のもと、進路ガイダンス、大学・企業訪問、産業界で活躍する方の講話、地域課題解決など様々な実践に取り組む。
- (人権・同和教育)
- ・人権・同和教育の充実を図り、差別を許さない心、障害のある人・在留外国人・LGBTなど様々な人々との共生を受け容れる心を含む。
 - ・SNSに関する指導
 - ・スマートフォンなどによる不適切な情報発信、犯罪被害・加害防止のため、校内使用ルールの厳守や学年集会等での啓発指導、外部講師による講演等により、常に注意喚起する。
- (地域交流・国際交流の実践)
- ・「佐学マルシェ」は情報処理科・商業科を活動の中心とし、課題研究の紹介や販売実習などを通して地域の皆さまも参加できるような実施する。
 - ・「インドネシア短期留学プロジェクト」の交流事業を通して、生徒の異文化理解、国際理解などに努める。
 - ・ボランティア部や生徒会、部活動単位でも、積極的に地域へのボランティア活動を行い、地域で活躍し、頼りにされる生徒を増やす。

4 前年度の成果と課題

- ・電子黒板及びタブレット端末を活用した授業は定着した。
- ・進学では、九州大学、鹿児島大学をはじめとする国立大学への合格、就職では、JR九州、久光製薬、トヨタ自動車等への内定を勝ち取ったことは評価できる。
- ・地域との連携について、今年度より「佐学マルシェ」は学校全体の行事として位置付けて実施したが、行事としての体制づくり等に課題が残った。4年目を迎え、「立ち上げの段階」から「定着・発展の段階」へ進化させる必要がある。
- ・キャリア教育の面では、学年で取り組んだ「キャリア・デザインタイム」、進路指導部のガイダンスも充実してきたが、重複した内容もある等、進路指導部と学年の協働性に不十分な点が見られた。
- ・本校のPR材料の一つである部活動は、運動部・文化部を問わず、各種大会での活躍が見られ、ボランティア活動も積極的に行われる等、多面的な活躍が見られた。特にゲームクリエイター部は本校独自の部活動として着しい成長を見せしており、クリエイティブ活動や地域との連携で目覚ましい活躍を見た。
- ・職員の不祥事防止にむけた取り組みが不十分であった。

5 総括表

領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営方針	学校経営方針	・本年度のキャリアフーズを生徒・保護者に周知することができたか。 ・本年度の重点目標にある3つの心を生徒に浸透させることができたか。 ・本年度の重点目標を職員が理解し、実現のために行動することができたか。	・学校評価アンケートにより、本年度のキャリアフーズを「知っている」生徒・保護者の割合を50%以上とする。(昨年度 生徒38%、保護者31.9%) ・SNSを使った問題事例(他者への誹謗中傷)や人権侵害にあたる事案を発生させなかったか。 ・日々の取組みについて、担当分掌等が主体的に取組み、教育活動に反映させるとともに、全職員で本校の特色や魅力の発信を行い、受検者数及び入学人数の増加に反映できたか。	・全校集会やSNS、ホームページ等を活用して生徒及び保護者に本年度のキャリアフーズ、重点目標及び3つの心を伝える。 ・日々の指導や講演会を定期的に行い、他者を思いやる心を涵養する。 ・本校における教育活動の指針となるルーブリックを作成する。 ・学校の教育活動をフロンティアで示したポスターデザインを作成し、生徒募集等に活用する。 ・校長は授業視察を行い、それに基づいた職員との面談の機会を増やす。また、研究授業の実施や教科ごとの指導検討会等を開くよう促す。 ・校長は、部活動の取り組みを随時視察する。 ・校長は、外部機関や地域との連携を積極的に図り、担当分掌や学年が動きやすいように情報を収集し提供する。	B	・全校集会等を活用してキャリアフーズを伝えて来たが、定着には至らず、保護者・生徒ともに認知度は3割を下回った。 ・他者を思いやる心の涵養については、体系的な教育ができず、不十分であった。 ・ルーブリックについては、作成することが目的化する恐れがあったため、作成を中断し、建学の精神に立ち返り、改めて本校としての教育の在り方などについて見直しの上で再開する。 ・SNSに関する指導については減少したが、顕在化していない問題もあると考えられるため、予防的的教育及びケアを継続的に実施しなければならぬ。
	生徒募集 (広報活動)	・募集定員を確保できたか。 ・本校の魅力や特色を中学生、保護者及び中学校に正しく伝えられたか。 ・広報と募集が一体化し、パンフレット・HPの充実、PRビデオ・ポスターデザイン等の作成と活用が図れたか。 ・オープンスクール及び佐学セミナーの参加人員は増えたか。 ・全職員が一体となって募集活動が行えたか。 ・特進コース及び進学コースの生徒を増やすことができたか。	・志願者1150名、推薦105名、専願70名、併願80名の入学者を目標とし、定員255名を確保する。 ・オープンスクールの参加者1000名、佐学セミナー参加者200名を目標として、志願者増につなげる。 ・全職員による中学校訪問、トップセールス、対策委員の訪問で、県内すべての学校で学力定着学生制度の拡充や進路指導、進路実績をPRする。・在校生との活躍の状況を出身校や保護者へ情報発信する回数や内容の改善を図る。	・オンデマンドによる学校紹介動画で本校の魅力や特色をわかりやすく伝え、再生回数を増やす。 ・生徒の活躍をマスメディア、メール等で積極的に情報発信する。 ・佐賀駅やバスセンターに近い立地を生かし、有料広告の掲載などを通して学校のPR活動を充実させる。 ・部活動顧問の講話活動に力を入れる。 ・本校の魅力や特色、国の学校支援制度、本校の進路指導などの充実したサポートを伝えるために、オープンスクールにおいて保護者向けの説明会を実施する。 ・佐学マルシェのPRを地区説明会や3社説明会で行う。 ・オープンスクールの在校生と中学生の交流タイムの充実を図るために、事前の研修会を実施する。 ・学力定着学生制度の拡充について成績中学校の職員や保護者に丁寧に説明を行う。	A	・推薦、専願、併願合わせて287名の入学予定となり、募集定員を上回った。 ・前年度からオープンスクール参加者は170名の増加、佐学セミナー参加者は78名増加し、目標を達成することができた。 ・推薦入学人数を108名確保することができたことは部活動顧問の意欲的な活動によるところだが、専願入学も昨年より23名増加することができた。 ・説明会等で学力・課題があったり、不登校傾向や特性を持つ生徒に親身に指導していることが中学生職員に徐々に浸透していることも成果として出ている。 ・本校の強みは、①県下最大の情報処理科を有し、その生徒を受け入れて進路保障に結び付けていること、②佐賀駅に隣接する立地条件をもつことであり、このことを重点に置いた広報活動を行う必要がある。また、進路指導部と連携してキャリア教育の取り組みを生徒・保護者にPRすることも今後の課題である。
	学校事務	・県民・地域社会の信頼を得る学校づくりを目指す。	・コミュニケーション能力の更なる向上を図る。 ・各自が担当業務の処理能力向上を図る。	・来校者や親御等の立場に立ち、気持ちの良い挨拶の励行を継続する。特に、用件のみは迅速に解決し、フロンティアの言葉がけを心がける。 ・各自が業務の習熟度を向上させるとともに、優先順位、労働時間管理を意図した業務遂行を実践する。	A	・お客様来校時や電話口での正確かつ迅速な対応や気持ちの良い挨拶も出来ており、自他の伝達に留まらず、プラスアルファの言葉がけも出来ている。 ・今年度の経験を生かし、各自が今後、更に習熟度を向上させることにより処理能力向上に努めたい。
職員の指導力向上	職員の指導力向上	・電子黒板やタブレットを効果的に活用した授業ができたか。 ・学習指導要領の改訂や、社会の変化に対応した教育の実践ができたか。 ・内容が豊富で、わかりやすい授業ができたか。 ・定期考査(中間・期末)の問題は充実したか。	・校内の研修会や佐賀県教育センターの専門講座や公開講座に参加し、指導力向上を図る。 ・研究授業や公開授業を通して、授業の質の向上を図る。	・職員研修会を各校務分掌で企画する。 ・教育センター研修会に積極的に参加する。 ・学校説明会や企業説明会に指導者として積極的に参加し、上級学校や企業の研究を行い、進路指導部と学年で進路指導を共有し、ミスマッチのない進路指導につなげる。 ・進路指導部と学年で連携し、進路講話を効果的に取り入れるなど、充実したキャリアデザインタイムを計画する。 ・本校卒業生による、校内進路ガイダンスでの学校・企業説明や、進路講話などを企画する。	B	・職員研修会を各校務分掌で企画することができた。 ・教育センター研修会に積極的に参加することができた。 ・11月に公開授業実演を実施し、教科にこだわらず、授業参観をし、授業改善に役立った。 ・各教科で研究授業を積極的に実施する。 ・学期当初の1週間を公開授業週間とし、授業参観をオープンにする。 ・各教科会で日々の実践を振り返り、授業改善につなげる。
	学力向上	・基礎知識と技能の習得が図られたか。 ・進路を見据えた学力が定着したか。	・「規律ある授業」の確立 ・「分かる授業」、「生徒を惹きつける授業」を展開する。 ・家庭学習を習慣化し、基礎学力を定着させる。 ・それぞれの進路に対応した個別指導を充実させる。	・学習規律を身につけさせる。 ・電子黒板及びタブレットを有効的に活用する。 ・スタディサプリを有効的に活用する。 ・各教科会を機能させ、「分かる授業」、「生徒を惹きつける授業」のための手立てを研究し、共通理解のもとで実践する。また、全職員が授業評価の達成率80%以上を目指す。 ・日常的に課題を課し、評価する。 ・生徒一人ひとりに寄り添った指導を行う。	B	・1.5時間を中心に、タブレットを有効活用した視覚的に分かりやすい授業が増えた。 ・全職員が授業評価の項目ごとの達成率が80%以上を達成できなかったため、各教科会を積極的に開き、授業の改善点を研究し、実践する。 ・スタディサプリをより効果的に利用する。
	進路指導	・各学年における進路ガイダンス等が進路意識の向上につながり、具体的な行動に反映されたか。 ・進路実現に必要な基礎学力が身についたか。 ・生徒の第一希望進路を実現できたか。	・学年に応じた、多方面からのアプローチによる進路ガイダンスを計画、実施する。 ・受験に対応した学力の定着と校内学力判定テストや到達度テスト、基礎力診断テスト等を実施した学力向上を図る。 ・就職内定率100%、国立大学合格率アップを目指す。	・大学進学希望者に対する長期休業中のセミナーや個別指導を実施する。 ・3年生に対する総体後の勉強会、夏季休業中の進路対策と就職対策の学習会や小論文・志望理由書、履歴書の書き方指導を行う。 ・学校説明会や企業説明会に指導者として積極的に参加し、上級学校や企業の研究を行い、進路指導部と学年で進路指導を共有し、ミスマッチのない進路指導につなげる。 ・進路指導部と学年で連携し、進路講話を効果的に取り入れるなど、充実したキャリアデザインタイムを計画する。 ・本校卒業生による、校内進路ガイダンスでの学校・企業説明や、進路講話などを企画する。	B	・各学年の進路ガイダンスは、就職講座や講演、アクティブラーニング等、各学年の実態に応じた充実した内容であったが、実施回数が多い多岐多岐になる部分もあったと思われる。 ・文章作成と公文書作成を上手に活用する生徒が増えたが、生徒が文章の内容についていけない状況もみられた。 ・志望理由書など作文力や表現力が一層求められている。 ・スタディサプリの活用に関して、個人の弱点を補強するための指導ができるよう、担任が生徒の理解度を把握する必要がある。 ・担任の積極的な進路学習への参加が必要である。
教育活動	生徒指導	・交通ルール・マナーは守られているか。 ・公共利用マナーの意識向上に努めているか。 ・正しい制服着用はできているか。 ・思いやりの心を持ち、自分を大事にしているか。 ・正しく自己判断ができているか。	・いつでもどこでもマナーアップの意識を持つ。 ・他者に対する思いやりの心を持つ。 ・制服を正しく着ようとする。 ・SNSによるトラブルには十分に注意する。	・交通安全に対する意識向上と生命の大切さを認識させる。加害事故0を目指す。 ・生活習慣の向上を意識させる。 ・全校集会、学年集会を通して、内面的指導を充実させる。 ・生活の中心にスマートフォンがないようにする。 ・自己判断能力とともに、信頼できる大人や友人に相談できる力を養わせる。 ・SNS/テラー講演会を開催し、SNSを正しく利用する力を養う。	A	・公共利用マナーの向上、他者を思いやる心の育成に力を注いだ。 ・自転車マナーアップのため、外部機関を招いての交通安全教育を実施し、交通安全意識を高めた。 ・情報モラル教育を実施し、更なるフロンティアを用いて、SNSに関する意識向上に努め、生徒への内面的指導に力を注いだ。
	環境美化	・清掃が隅々まで行き届いているか。 ・ゴミの分別収集ができたか。 ・自ら清掃活動に参加しているか。	・毎日の清掃を徹底する。 ・各クラスのゴミの分別を強化する。 ・校内美化を意識して清掃に取り組む。	・美化コンクールを実施する。 ・ベントボルの分別を徹底する(ラベルを剥がし、キャップは別に回収) ・全員清掃の時間を設ける。 ・清掃用具の不足を減らし、清掃する環境を整える。	A	・清掃活動やゴミの分別は概ね良好な状況だが、一部清掃が徹底できていない場所もある。担当者と生徒が徹底するという意識を持って取り組む必要がある。
	課外活動	・仲間と切磋琢磨し社会性や強い精神力を身につけ、人間性を高めることができたか。 ・学校の活性化につながる事ができたか。	・部活動加入率70%を目指して、担任、副担任及び顧問との連携を密にし、各活動の部員数を増加させる。 ・優勝旗5本を目指し、全国の舞台を経験できるように強化する。	・文武両道で実践できるように、部活動のみならず授業にも真剣に取り組ませる。 ・競技力の向上だけでなく、人格形成にも重点を置く。 ・部活動の活躍や魅力を校外に発信する。	A	・部活動加入は目標までと少しはなっており、授業料無償化で経済的負担も軽減することにより今後の伸びが期待できる。また、全国大会への出場権を獲得し、県内にとどまらず、全国の舞台への躍進も期待できる。 ・進路保証についても各顧問が責任を果たしており、日頃からの授業への取り組みに対する指導が進路決定に繋がっていると考えられる。
特定課題	長期欠席・不登校傾向の生徒に対する対応	・学級担任・学年主任・教科担当者・管理職・カウンセラー・教育相談担当職員と保護者との連携を図り、生徒への対応が充分に行われ、学校又は教室への復帰がなされたか。 ・教育相談室の生徒への学習指導と適切な評価が行われたか。	・精神的安定が保たれ、生徒自身が学校・学級への関心を持ち、友人関係を築き、所属学級へ戻る事ができる。 ・教育相談室での学習や学校行事に関心を持って取り組み、達成感を得る。 ・全職員がカウンセリングマインドを生かして悩みを抱えている生徒に対応できる。	・職員が一つのチームとして保護者と連携を図りながら生徒をサポートする。 ・カウンセリングを充実させる心の安定を図り、スムーズに所属学級に戻れるようにサポートする。 ・Q-1を活用し、生徒が安心して過ごせる学級づくりを行うためのサポートを行う。 ・発達障害等を抱える生徒への対応ができるよう、研修会等の参加を呼びかける。 ・個別支援及び教科担当者との連携を図り、教材の準備や個別指導を充実させ、学力の定着を図る。 ・スクールカウンセラーとの面談や県教育センター講座を受講して、カウンセリングマインドを身につける。	A	・担任や学年と連携をとりながら、生徒へ適宜サポートすることができた。日々の声かけにより、休み時間以外には授業参加できる生徒が増え、全員が学年を修了することができた。 ・SCのカウンセリングを積極的に活用できた。相談室に入室も積極的に声をかけ、心の安定を図りながら学校生活へ前向きに送ることができた。 ・Q-1等の活用が不十分。校内研修の実施や教育センター講座への参加を呼びかける必要があった。 ・学習においては、教科担当者から直接生徒へ課題を配布する体制をつくりたい。授業参加の声かけや個別指導で授業準備に繋がった場合があった。また、朝の自習時間の充実を図りたい。課題やスタディサプリに自ら積極的に取り組む雰囲気や環境が必要である。
	マナー指導	・社会的マナーを身につけ、服装等を整えることにより、清く正しい生活をめざす心をもつことができたか。	・学校内外での立ち居振る舞いについて、TPOに応じた行動をとることができる。	・ホームルームや学年集会等を通して継続的に講話を行うとともに、生徒会と連携したマナーアップ運動を展開する。 ・全職員による服装等の指導強化週間を設け、学校全体での取り組みであることを意識させる。	A	・服装面での指導は減少傾向にあるが、スマートフォンの使用で指導を受けるケースがあった。来年度は、校内でのルールを再度啓発し、正しい利用スキルを習得させる。
	生徒会活動	・校内の問題を自主的に考え行動し、社会性の向上を図れたか。	・学級活動や各種委員会活動を発案し、学校全体のマナーアップを図る。 ・生徒指導部職員とともに校則の見直しを協議する。 ・環境美化に努める。	・生徒会での議論を増やし、関連分掌・学年・学級の垣根を超えて連携を図る。 ・生徒会主体の行事の事前準備、企画運営を通して組織の在り方を体験を通して学ぶ機会とする。 ・本校の課題は何なのか生徒主体で考える機会を作る。	A	・生徒会に学校を動かしているという自覚が出てきているものの、執行部での運営主体でとまらぬように、これをより広範に影響力を持つようになる学校の魅力にすることができているのではないかと考える。 ・各種委員会での話を各クラスから挙げるような仕組みの構築を目指したが、今後はより強固に実施できるように取り組んでいければと考える。
キャリア教育・トシ	キャリア教育・トシ	・トシの学習内容を理解させて、生徒に基礎学力を身につけさせることができたか。 ・キャリアデザインタイムを通じて、自分の将来について真剣に考え、個々の適性に合った進路選択や実現を目指した取り組みができたか。	・トシ及び到達度テスト・基礎力診断テストを活用して、基礎学力の向上を目標とする。 ・定期的な面接や進路ガイダンス、諸調査を通じて自己の適性を知り、日常の諸活動の中で自己表現力や礼儀作法を身につけることを目標とする。 ・適宜、指導者は個人に応じた面談を行い、その時々進路意識や目標を確認することで、卒業後の進路変更や早期就職につながらないことを目標とする。	・トシを通して、学力向上に直結する動画配信を行い、定着させた学習内容を常に精査する。 ・全職員が生徒に学習内容を定着するために予習を行い、より効果的なフォローアップが出来る体制づくりに取り組む。 ・確認テストと基礎力診断テストを分析しながら、長期休業中や放課後の学習会を通して、学力向上につなげる。 ・面接における質問内容や実施方法について、職員研修等を実施しながら、生徒への適切な指導や助言内容の充実を図る。	B	・基礎力診断テストで、D3ゾーンの人数が非常に多い。学年は上がったも相対的に学力は下がっている。 ・学習する動機を身に着けなければならないが、進路指導部だけではできない。教科担当の授業、課題、評議などの取り組み全体が、生徒の学習に対する動機を生かしている。 ・評定平均値で表される学習成績が良く、面接で良い評価を得たとしても、本書の学力テストで得点でまず1着1着目立てられなかった事例が数件あった。日々の学習が大切である。

6 成果と課題

- ・生徒募集対策室や部顧問の地道な活動が実り、入学希望者の増加につながった。これに油断せず、創立70周年に向けて、建学の精神を再確認しながら、更なる学校の活性化に向け、職員・生徒一体となった学校づくりが必要である。
- ・佐学マルシェを商業科・情報処理科1年生の授業と関連性を持たせながら実施した。課題はあったが、実践的な学びの場として大きな可能性が感じられた。
- ・本校のPR材料の一つである部活動は、運動部・文化部を問わず、各種大会での活躍が見られ、ボランティア活動も積極的に行われる等、多面的な活躍が見られた。特にゲームクリエイター部は本校独自の部活動として着しい成長を見せしており、クリエイティブ活動や地域との連携で目覚ましい活躍を見た。
- ・キャリア教育の面では、学年で取り組んだ「キャリア・デザインタイム」、進路指導部のガイダンスも充実してきたが、重複した内容もある等、進路指導部と学年の協働性に不十分な点が見られた。
- ・人間力の向上については、道徳教育が不十分であり、根本的な見直しが必要である。